

各地の反核医師の会から

石川

『はだしのゲン』を ひろめる会』を設立



核戦争を防止する石川医師の会
代表世話人 白崎 良明

私たちは、2010年に ICA Nが呼びかけた Nuclear Abolition Dayを毎年、開催している。2011年からは若い世代に核被害の実相を伝え、核廃絶運動を広げるために県内の小・中学校に『はだしのゲン』を寄贈する運動に取り組んできた。各自治体の教育委員会を通して各小・中学校の『はだしのゲン』の所蔵状況と寄贈希望の有無をアンケートに答えてもらい、寄贈先を決め、今まで、金沢市はじめ、3市1町の30小中学校、9中学校に『はだしのゲン』39セット、『bare foot



内灘町教育委員会に寄贈したときの様子。左から、内灘町開業の歯科医師・小島登氏、筆者、『はだしのゲン』をひろめる会理事長の浅妻南海江氏、同会理事の西多喜代子氏。2012年10月5日

り組みについて懇談したりしている。

昨年12月9日には私たちの活動をさらに広げるために『はだしのゲン』をロシア語版、英語版に翻訳出版した地元のパランティアグループ「プロジェクト・ゲン」、石川県生活協同組合連合会役員有志と一緒に『はだしのゲン』をひろめる会「理事長：プロジェクト・ゲン」代表の浅妻南海江氏）を設立し、NPO法人認証を申請中である。

設立時には、12月19日に亡くなった中沢啓治さんも病床から「…ゲンは地球上を何百回、何千回もはだしでかかげぐり、愚かな戦争と核兵器をなくすためにガ

ンバル決心でございませす。また、世界平和と核兵器反対が少しでも多くの人に理解されるよう、『はだしのゲン』がしっかりと役割を果たしてくれることを願っています。皆さん、ゲンに力を貸してやってください。ゲンはたくましく生き抜いていくでしょう。…」のメッセージを送ってくれた。これは遺稿となったようだ。

国内外に被爆証言を進めてこられた被爆者の皆さんが高齢化する中で、国内外の若い世代に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶運動を引き継ぐための教材として『はだしのゲン』をひろめるために皆さんの賛同と協力をお願いしたい。